

飲酒運転の悲惨な事故が後を絶ちません。政府をあげての飲酒運転防止キャンペーンや、企業の事故防止活動、法制面での罰則強化等、さまざまな対策がとられているにもかかわらず、根絶には程遠い状況です。

今回は、あらためて飲酒の人体への影響にスポットをあて、その仕組みを理解しながら、飲酒運転の危険性について、再確認したいと思います。



1. お酒には強いですか？

お酒に強い方は、飲酒をしても顔色が赤くなる、頭痛がして気分が悪くなるなど、不快な反応に見舞われることが余りありません。体内に入ったアルコールは肝臓内で分解されることとなりますが、お酒に強い人と弱い人の差は、どこにあるのでしょうか？※1,2

- ①お酒の強さはアルコールに対する耐性によるのではなく、肝臓内でアルコールから生成される、有毒なアセトアルデヒドの分解能力に依存する。
※アセトアルデヒドは、顔色を赤くする、気分を悪くするなどの作用を及ぼします。
- ②人の認知や判断過程など高次な脳の働きを麻痺させるのはアセトアルデヒドではなく、アルコールによるため、お酒に強くても脳の働きに影響を与える。
- ③実験の結果でも、お酒に強い人も弱い人と同様に、運転操作等に影響を与えることが示されている。

アルコールは、胃や小腸から吸収され、血管を通じ全身の臓器に広がるため、飲酒開始直後から脳への影響が生じています。お酒に強い人は不快な反応に見舞われることが少ないだけに、アルコールの影響を受けていないように誤認しているのかもしれない。

※1.厚生労働省e-ヘルスネット アルコールの吸収と分解

<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/alcohol/a-02-002.html> (2017.12.12閲覧)

※2. 科学警察研究所「低濃度のアルコールが運転操作等に与える影響に関する調査研究」

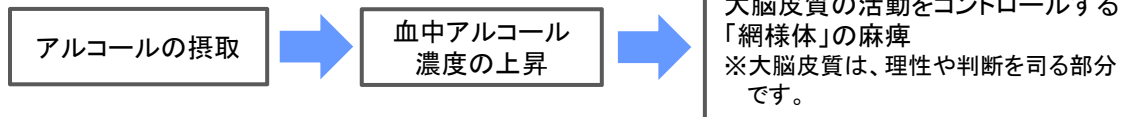
<https://www.npa.go.jp/koutsuu/kikaku/insyuunten/kakeiken-kenkyu.pdf> (2017.12.12閲覧)



2. 飲酒の運転への影響について

飲酒運転は、ビールや日本酒などの酒類やアルコールを含む飲食物を摂取し、アルコールを体内に保有した状態で運転する行為です。※3,4
 飲酒が運転に与える影響には、どのような特徴があるのでしょうか。

◆アルコールが脳に影響を与える経路



◆運転に与える具体的な影響※1,2

- 気が大きくなり、速度超過などの危険な運転をする
- 車間距離の判断を誤る
- 危険の察知が遅れる
- 危険を察知してからブレーキペダルを踏むまでの時間が長くなる
- 動体視力が落ち、視野が狭くなる
- 平衡感覚が乱れ蛇行運転となる

このように、お酒に強いかわりに弱いかにかかわりなく、アルコールは運転行動に大きな影響を与えますので、飲酒運転はいかなる理由でも認められません。

※3警察庁Webサイト みんなで守る 飲酒運転を絶対にしない、させない
<https://www.npa.go.jp/bureau/traffic/insyu/info.html> (2017.12.12閲覧)
 ※4政府広報オンライン 飲酒運転は絶対に「しない!」「させない!」 みんなで守ろう3つの約束
<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201312/1.html> (2017.12.12閲覧)

3. 道路交通法の罰則

飲酒運転には厳しい罰則が定められています。酒類を提供した人や、同乗者も罪に問われますので、いま一度確認してください。

- ◆車両を運転した者／車両を提供した者
 - 酒酔い運転の場合 ⇒ 5年以下の懲役又は100万円以下の罰金
 - 酒気帯び運転の場合 ⇒ 3年以下の懲役又は50万円以下の罰金
- ◆酒類を提供した者／同乗した者
 - 酒酔い運転の場合 ⇒ 3年以下の懲役又は50万円以下の罰金
 - 酒気帯び運転の場合 ⇒ 2年以下の懲役又は30万円以下の罰金

酒酔い：
 アルコールの影響により車両等の正常な運転ができない状態をいいます。

酒気帯び：
 呼気中アルコール濃度が0.15mg/l以上



SOMPO ホールディングス
 損害保険ジャパン日本興亜株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
 ホームページ <http://www.sjnk.co.jp>

時間に余裕をもって、
「お・も・い・や・り」のある運転を!
 みなさまの無事故を願っております。

エヌエスサービス (株) 一同